

コミュニティスクールだより

令和8年度 第1号

氷室のかぜ

そお小学校学校運営協議会
(事務局 そお小学校)
電話 85-0207

祖生地区大運動会に参加して

下南 山本 和清

祖生地区大運動会が絶好の晴天の下、「最後まで 仲間を信じて 走りぬけ」をスローガンに開催され、高齢ながら参加をいたしました。

前半に行われた児童の「徒競走」では、靴が脱げながらも一生懸命走る姿を、我が孫が走る気持ちになってハラハラドキドキしながら応援しました。また後半に行われた「応援合戦」「そお小ソーラン2026」では、全児童が大きな声を出し、のびのびと楽しんで演技している姿がとても印象的でした。

私の旧東小学校時代は300人程度の児童がおり、運動会は現在の祖生グラウンドで東西小学校・中学校合同で開催されており、朝早くから小学校に集まり、先生の引率で歩いて参加していました。道中同級生同士で参加種目をわいわいがやがや楽しく話したことが思い出されます。運動会も一日あり意気揚々と参加したものでした。

今回様々な種目に参加させていただき、身体機能の低下を感じましたが、心はたいへん晴れやかになり楽しい時を過ごすことができました。園児・児童の皆さん、保護者・地域の皆さん、先生方、すばらしい運動会に参加させていただきありがとうございました。そして皆さんお疲れ様でした。



6月11日(木) 田植えを体験してみて～6年生の感想

最初は怖かったし、上手にできなくて「無理かも」と思ったけど、やっていくうち苗を取る配分や植える速さも上手になり、地域の方に褒められて嬉しかったです。（梅川 千穂）

昔の人はヒルやカエル、ゲンゴロウなどいる中でよく田植えをしたなと思いました。けど、地域の方々みんなと一緒に田植えができたので良かったです。（齊藤 蓮）

田植えはそんな簡単なことではありませんでした。足はぬかるみにはまり、苗は抜け、挙げ句の果てには、こけて泥まみれ…でも、最後まで頑張ってきたので嬉しかったです。（竹田 圭吾）

人生2回目の田植えで、苗を植えるときは、下まで優しく押し込んであげると倒れにくいというコツを思い出しました。みんなが一致団結していて、協力ってすごいと思いました。（藤本 翔）

田んぼに足がはまって抜けないことがあったけど、最後まで丁寧に、そして慣れてくると速く植えられるようになったし、みんなと協力して田植えができて良かったです。（古川 琴葉）

田んぼに入る前はすごく怖かったけど、入ったらすごくぬめぬめしていたし、上は温かくて下はすごく冷たくて、少し気持ちよかったです。（村上こはる）

一番大変だったのは苗を植えることです。なぜなら、上手に3本取って印のところに植えなければいけなかったからです。今回の経験でみんなと協力する大切さを学びました。（森光 真也）

田植えの説明を聞いたとき、「難しそう、できる気がせん!」と思いましたけど、やってみると意外とできて嬉しかったです。自分の家の田植えも頑張りたいです。（山根 新）

「農業とは？」～5・6年授業を行って～

錦町向峠 梅川 仁樹

農業は 米や野菜、家畜などの生産物を販売する職業です。しかし農業そのものの意義は、食料の安定供給と国土保全、そして農村のもつ多面的機能を継承する産業であることを農業者も消費者もあまり意識してない産業でもあります。

世界的な異常気象、世界的な人口増加、予期せぬ感染症の蔓延、紛争、エネルギー問題など、食料を取り巻く環境は地球規模で将来に不安を残す要因ばかりである。

食料自給率38%、島国である日本の食料事情はどうだろうか。スーパーマーケットの食料品のうち、どの位の国産品と地元の産品があるだろうか。生鮮品のほとんどは県外または海外産。スナック、麺類、レトルト食品などの主原料は、ほぼ輸入品である。

あまりにも日常すぎて気付かないかもしれないが、このような食料事情を考えたとき、「いざ」という事態にどう対応できるのだろうか。

一昨年に引き続き、4月27日に2度目の授業を行ったが、農業の大切さ、物を生産する喜びを感じてもらい、将来の職業の選択肢の一つに考えてもらえれば幸いです。



ようこそ先輩! いそお

平本 平岡 真大

6月17日に、母校であるそお小学校にて「ようこそ先輩」の授業でお話をさせていただきました。18年前に当時の祖生東小学校を卒業し、今回小学生とお話する機会を得たことは、私にとって大変貴重なものとなりました。児童の皆さんも、私からの質問に対して積極的に発言いただき、逆に元気ももらいました。

授業では、①私の仕事と農業について、②みなさんに伝えたいことのカテゴリに分けてお話をしました。

①では祖生地域で約25年前に、形の悪い小さな田んぼを大きく形のよい田んぼにするほ場整備工事が行われたことを紹介しました。ほ場整備工事を行うことで、農業の機械の大型化が可能となり耕作放棄地が発生しにくく、間接的に洪水を防ぐなどの役割も果たします。また、山口県の農家の平均年齢が全国で1番高いことをお話すると、児童の皆さんがびっくりしていました。

②では3つの伝えたいことを私自身の経験を交えて紹介しました。

まず『ふるさとを誇りに思ってもらいたい』ことについて、祖生には柱松やお米、美しい田園風景といったほかの地域にはない魅力があることをお話ししました。児童の皆さんもお米づくりを体験されているようですが、田植えや稲刈りのほかに水管理や草刈りといった大変な作業もあること、祖生米は岩国の中でもブランド米として知られていることなども説明しました。そういった祖生独自の魅力がたくさんあるということを感じてほしいと思います。

次に『好きなことや興味のあることを続けてほしい』ことについて、私自身が小学3年生の時に弁論大会で発表した作文を交えて説明しました。私は幼稚園児の頃から農業を手伝ってきており、当時の作文では、将来の夢は農業をすることと書いていました。今は、兼業農家で農業を続けていることをお話ししました。児童の皆さんには、小学校から好きなこと興味のあること何でも、大人になっても継続してほしいことが伝わればよいと思います。

最後に『たくさんの人と出会い、友情を大切にしてほしい』ことについて、自身の小学、中学、高校、大学等で出会った友人のお話をしました。いろいろな人と出会うことで、自分の視野が広がることや、友情を大切にすることで何十年たっても絆は結ばれ、自分の幸せにもつながることを紹介しました。

今回お話したことが、何か一つでも児童の皆さんの心にとまり、これからのお役にたてたらと思います。



《編集後記》

みなさまのご協力により、「氷室のかぜ」第1号を無事に発行することができました。ありがとうございました。熱中症に気をつけ、お体十分ご自愛ください。〔氷室のかぜ 編集部一同〕